

## 2次マスターコース(土日通学)

堀江さん

---

### 【中小企業診断士を受験した動機】

私は大学卒業後ITエンジニアとしてキャリアをスタートし、数社を経て、ここ数年は総合コンサルに勤務し主にITやマネジメント関連の業務に従事しています。仕事柄、様々な業界・業務部門のクライアントと仕事をする機会があり、都度勉強してキャッチアップをする必要があるのですが、得てきた知識を整理・拡張できればという意味合いで、診断士には以前から興味がありました。ただ、直接的な要因としては、2011年に大きな病気をしてしまい、2月に入院し、その後3ヶ月間の自宅療養をしているうち、せっかくだから何かしないともったいないと思い立って、受験を決意しました。

### 【受験年度】

2011年 1次試験 合格(自己採点464点)

2次筆記試験 不合格(BBBA=B)

2012年 2次筆記試験 合格

### 【1年目(1次試験)の学習】

4月中旬から独学をスタートし、会社に復帰するまでの時間的余裕もあったものの、もともと情報は得意で(6月の某全国模試では科目順位1番になったりもしました)、初学者が苦勞しそうな財務・会計も業務上必要となるケースが度々あったため、その点有利であったと思います。ただ経済学は初学のうえ、確実な理解が必要なのに質問できる相手がいないので、テキストを3冊見比べながら頑張りました。感覚的に、総勉強時間の3~4割程度を経済学に費やしました。その他の勉強方法は効率重視で、1冊の問題集を複数回転させ、間違った部分をテキストで復習(暗記)するというものでした。

### 【1年目(2次試験)の学習】

1次試験の合格発表後、特に比較検討を行うこともなく、某大手受験機関の2次対策講座で勉強を開始しました。

この講座で論述の添削をしていただいていたのですが、安定した点数の向上ができませんでした。そうこうしているうち、与件抜き出しの現代国語のような解法のまま本試験を迎え、不合格となってしまいました。ただテクニク的なものもほとんどなく臨んでのBBBA評価ですので、正しい予備校選びで1年頑張れば次はどうにかなりそうだと感じていました。

### 【2年目の学習(2次試験)】

#### (1)MMCを選んだ理由

1回目の2次試験に失敗して、すぐに次の試験まで1年間通う予備校を検討しました。インターネットの情報等をもとに、MMCと他2校まで絞り、その後説明会に参加して最終的にMMCに決めました。決め手は、

- MCサークルやキーワードマトリクス等の解法の基盤となる「ツール」が存在すること
  - 添削が「論理」や「伝わりやすさ」を重視しており、実際の試験の採点観点も同様であろうと直感したこと(勤務先で日常的に行っている資料レビューに近いもので、自分にとって受け入れやすかったこともあります。)
  - 欠席する場合の曜日の振替があること
- でした。

## (2)答練を通じた学習

MMCの答練では、まず、合格点(=6割)の解答を目指すよう言われます。従って、各答練では、6割未満であった場合には必ず再答案を提出するようにしました。

添削で頂いた指摘事項(コメント)は、Excelファイルに転記していき、次の答練に活かすための分析を行いました。具体的には、まず、指摘事項の内容を分類します(「論点が不明確」「根拠記述の不足」「記述が冗長」「キーワードの不足」「切り口(...面)の不足」「与件の抽出不足」「題意の取り違い」等)。この『内容分類』から、『改善視点』を導き、そこから『手順化(解答作成プロセスへの取り込み)』を検討します。例えば、「与件にある販促の観点も解答に含めたい」と添削で指摘されたならば、『内容分類』は「与件の抽出不足」ではありますが、ここで終わってしまうと次に活かせないので、『改善視点』は「与件を取りもらさない仕組みが必要」とし、今後の『手順化』として「初回の与件読み込み時、使用しそうな部分への蛍光ペン使用(使用漏れ回避)」のように具体的な作業レベルで検討します。要するに各指摘事項を『内容分類』『改善視点』でグループ化し、シンプルで少ない改善手順に収斂させていきます。実際取り組んでみると、手順化で対応できるケースはそんなに多くありませんが、できるだけ手順化によって今後同じ過ちが起きないような道を探ります。手順が増えてくると試験の80分に収まりきらなくなるので、随時全体の手順を見直し(取捨選択し)、80分で実施可能に再検討していました。また、手順化が難しい(個別の)改善視点に関しては、普段持ち歩く小さなノートに書きつけてスキマ時間に確認するようにしました。

答練ごとにMMC推奨の「キーワードマトリクス」も追記していき、これも強力なツールになりましたが、私はもうひとつ、事例横断の「漢字・熟語リスト」を作成しました。「ひらがなで書くのは気がひける『毀損』『磐石』『旺盛』『醸成』『精緻化』...etc」「『軋轢』が書けなくて『コンフリクト』にしたら字数が足りなくなった」「『広域的集客力』この表現が出てきたらコンパクトにまとめられたのに」などの漢字・熟語関連で苦い経験をしたら追加するリストです。スキマ時間に何度も書いて頭に定着させました。

## (3)財務の計算問題対策

財務の計算問題対策として、MMCから配布されるミニ答練と、基本知識確認テストをA3用紙に縮小プリントして持ち歩き、繰返し解きました。ほとんど答えを覚えてしまっていたのですが、それ以外の問題はほぼ手を付けませんでした。結果的に平成24年度の本試験はそれだけで十分でした。

### 【2次合格のために特に留意した点】

1次試験を突破した人の中での相対試験となるため、本番時の焦りからくるミスや動揺を避けるべく、平常心を保つための工夫が重要となります。私は以下のように考え(実践)しました。

●受験生の多くは本番で時間切れになって設問まるごと空欄を作ってしまう悪夢を見たことがあるのではないのでしょうか。その不安を払拭するべく、私はMMCの答練で絶対に空欄を作らないことを意識しました。時間がなくなってきたらどこかで(私の場合は残り35分)区切りを付け、一般論でも与件丸写しでも何でも書きながら考えて埋めます。これは1年通じて完璧にやるのが重要です。これにより、本試験で自分が与件を読んでいる最中に周囲がペンを勢い良く走らせることがあっても、「私はこの1年間1度も空欄を作っていないから、いつものペースで絶対に大丈夫(周りが焦っているだけだ)」と信じてことができます。あくまでも本番を意識してとにかく完全に埋めることを第一に、日々の答練に臨むことが重要だと思います。

(ただし、財務の計算の場合はあてずっぽうは意味がないので、当てはまりません。)

●相対試験のため、答練後配布してもらえる1番の人の答案を重視しました。自分と同じ条件で書き上げた1番の答案は、現実的に目指すべきラインとして、非常に参考になります。模範解答は一通り読んでキーワードを拾う程度でしたが、1番の解答と自分の解答は机で並べて比べたりをよくやりました。「この差を埋めれば1番なのか」「1番の答案でも設問別で見ると私の解答の方が得点が高いものがあるんだ」等、いずれも模範解答と比べるよりずっと現実的です。5月に行われる合格答案分析会では全員の(無記名の)答案を全員が検討するのですが、これも全体のレベル感を確認するうえで大変参考になりました。

●相対試験という特性や、自分の知らない知識をストレートに問う問題の出現など、「運」も少なからず作用するため、合格の確率は高められても7割程度と見込みました。それを踏まえて夏ごろには「合格するまで毎年受験する」と決めてしまいました。合格率を7割まで高めれば2回受験すれば9割合格できる計算となりますから、「今年合格するか来年合格するかの違い」と考えることができ、必要以上に硬くなるのを避けられました。

これらを留意することで、本試験では、リラックスしながらも集中力を高めて臨むことができました。平成24年度の事例Ⅱでは「コーズリレーテッド・マーケティング」のような知識を必要とする問題が出たり、事例Ⅳでは従来の経営分析がなくなっていたりして動揺した方も少なくなかったと思いますが、私は「とりあえず冷静に、できることをやれば、敵失でむしろチャンスになる」と思うことができました。また、事例Ⅳの損益計算書の記述問題は2回ほど全体を書き直しましたが、手がついていな

い問題があったにも関わらず、平易な問題を確実に解答したほうが相対的に有利になると、リラックスして冷静に判断できたと思います。

### 【おわりに】

2次試験は1次試験とは違い、1人で黙々と勉強してはなかなか上手くいかないと思います。それは、講師の添削や他の受験生の解答を参考にすることで自分のレベルを常に把握し、「相対的に」これくらいの出来栄であれば合格しそうだ、という感覚を掴んで、本番でその力を落ち着いて(素直に)発揮することが重要と思うからです。その観点で、講師間でバラツキの少ない答案採点、答練ごとの順位付けと1位の解答の配布など、MMCは非常に良い学校だと思います。講師の皆様、一緒に受講した受講生の皆様、1年間ありがとうございました。